

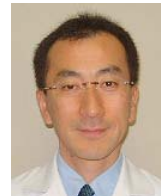
# harmony

— 岩手県立中部病院 地域連携便り VO1.8 —

— ごあいさつ —  
走り続けて……。

緩和医療科長兼地域医療科長兼  
地域医療福祉連携室長

ほしの あきら  
星野 彰



皆さまにはいつも大変お世話になっています。中部病院は開院してもうすぐ4年、本当に早いものです。振り返ると4年間、スタッフは皆、全力で走り続けてきたような気がします。とにかく、院長が先頭に立ってぐいぐい行くものですから、私たちは、「殿、お待ちください」状態で走り続けて、気づくと、紹介患者数一日平均44人、救急車受け入れ台数一日10台、平均入院日数は約10日と、当院はこの規模では全国でも有数の紹介型急性期病院になってしまいました。入院日数が短ければ短いほど患者さんもスタッフも大変なのですが、ひとつだけよいことがあります。それは限られた病床とスタッフでよりたくさんの患者さんを救い支えられるということです。これは私たち病院のがんばりだけでは決してできないことで、地域の医療機関や市民の皆さんの理解と協力があればこそです。

私は地域医療科長という役柄、回復期にある入院患者さんに退院をお願いしなければいけない場面があり、そのときにはこう説明しています。「うちの病院には一日40人の重症患者さんや手術が必要なかたが入院します。400床のベッドは10日間で一杯になります。あなたが入院できたのは10日前に入院したかたがベッドを空けてくれたからです。次の重症患者さんのためにベッドを空けてください。家に帰るのが難しければ私たちが療養先を探します。」・・せつなくてきびしい話ですが、皆さんは理解をしてくださいます。市民の皆さんお一人お一人の地域を思う気持ちに頭が下がります。

これからも私たちは地域を支え守るために、皆さまと一緒にひたすら走り続けていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

そ〜らぁ通信  
mini

『そ〜らぁ通信』は「太陽」・「エコ」・「青空」、そして「元気の良い掛け声」と、たくさんの意味がこめられた院長通信の名前です。北村院長は山歩きが大好き。このコーナーでは、北村院長が山で出逢った花々を紹介します。



イワウチワ

出会いまで2年…… 本年度も連携先の皆様には大変お世話になり有り難うございます。本年度最後の花には、イワウチワを選びました。淡いピンク色で清楚

に咲く春一番の山野草です。台温泉の万寿山に見事な群生地があります。雪の消えた直後に咲くため、タイミングを逸し、出会いまで2年を要しました。その分、待ちに待った感激の対面でした。春の訪れの喜びを実感する花です。この山の4月下旬は、ユキワリソウ、セリバオウレン、シヨウジョウバカマ、カタクリが一気に咲き外せません。

# 脳死下臓器提供施設となりました



当院はこの度、脳死の判定がなされた場合に臓器提供を行うことができる施設となりました。

臓器移植とは、重い病気や事故などにより臓器の機能が低下し、移植でしか治療できない方と死後に臓器を提供してもいいという方を結ぶ医療です。

第三者の善意による臓器の提供がなければ成り立たない医療です。日本で臓器の提供を待っている方は、およそ 13,000 人です。それに対して移植を受けられる方は、年間およそ 300 人です。

臓器提供は、脳死後あるいは心臓が停止した死後にできます。平成 22 年 7 月 17 日に改正臓器移植法が全面施行され、生前に書面で臓器を提供する意思を表示している場合に加え、ご本人の臓器提供の意思が不明な場合も、ご家族の承諾があれば臓器提供できるようになりました。これにより、15 歳未満の方からの

脳死後の臓器提供も可能になります。平成 25 年 3 月現在、岩手県内においても脳死判定後に臓器提供が行われたケースが 2 例ありました。

新しく発行される健康保険証や運転免許証の裏面に臓器提供の意思表示欄があるほか、新臓器提供意思表示カードは当院では総合案内に設置しておりますが、市町村役場窓口、保健所、ハローワーク、コンビニエンスストア等に設置されています。

自分が最期を迎えたときに、誰かの命を救うことができます。自分の意思を尊重するためにも、臓器移植について考え、家族と話し合い「提供する」「提供しない」どちらかの意思を表示しておくことが大切です。



2月14日(木)に今年度第2回目となる地域医療研究会を開催いたしました。

今回のテーマは「中部地域の救急」として、中部病院の救急、西和賀地区の救急、脳疾患の救急、救急と看取り、周産期連携について、5人の先生方からご発表頂きました。

今回も多くの皆様方にお集まりいただき、活発な意見交換がなされました。救急医療は一つの病院だけでは成り立つものではなく、各機関の皆様方や市民の皆様方のご協力のもと成り立っております。

来年度も地域医療研究会を開催する予定としておりますので、多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

## 平成 24 年度第 2 回 地域医療研究会

## 医科歯科連携研修会

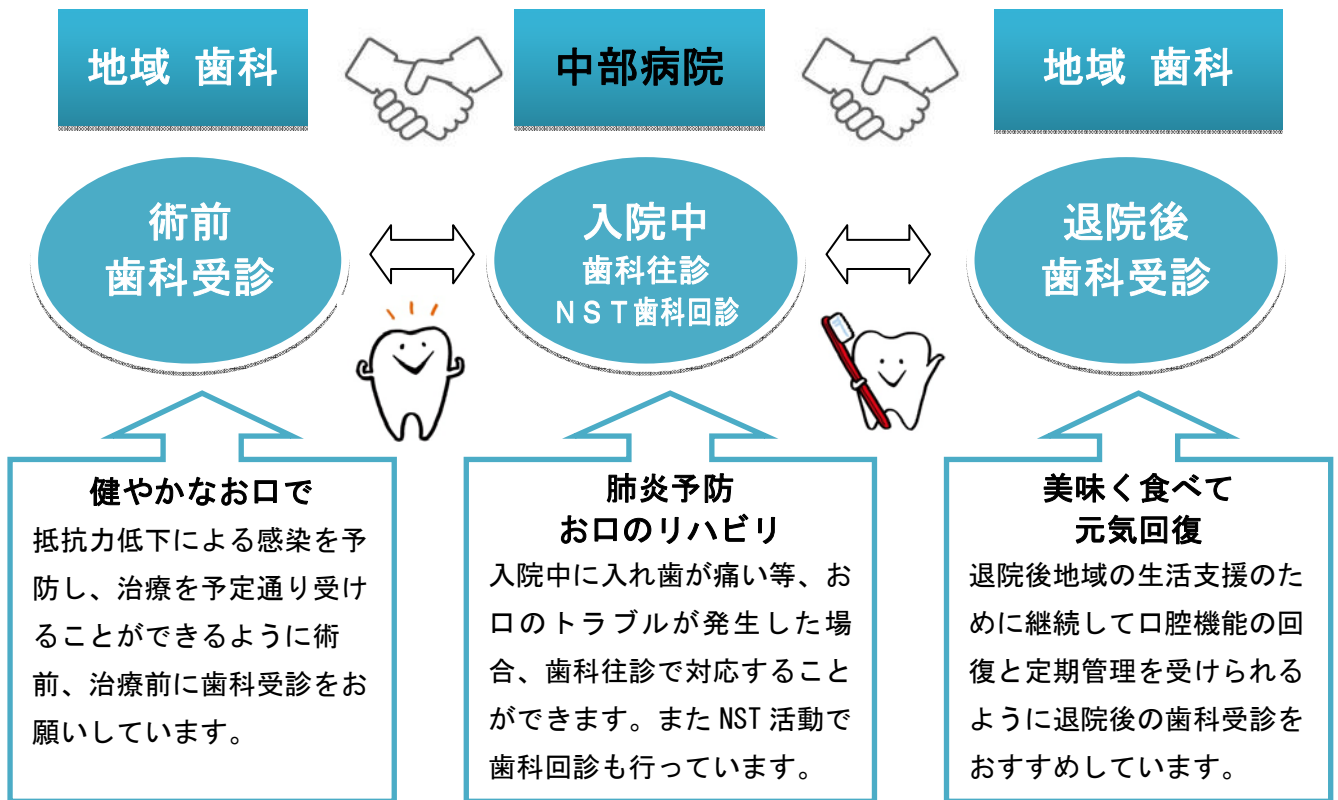
3月13日(水)に医療・介護施設担当者や行政機関職員向けに口腔ケアに関する研修会を開催いたしました。年度末の慌ただしい時期にも関わらず、多くの方々にお集まりいただきました。

当院では今年度地域の歯科医師会様のご協力を頂き、がん診療医科歯科連携を始動しております。がん医療以外においてもご協力のもと、医科と歯科の連携を強化しております。

来年度は更なる連携強化を図り、口腔ケアに関する研修会も開催する予定としておりますので、多くの皆様方のご参加をお待ちしております。



# 医科歯科連携 中部病院と地域歯科の連携について



＝放射線治療・核医学分野での取り組み＝

## 《6回シリーズ第5回》<sup>89</sup>Sr(ストロンチウム89)を用いた骨転移の疼痛緩和治療

放射線治療科長 小原 東也 おばら とうや

旧来、骨転移を生じた部位の疼痛に対する放射線治療の緩和効果はよく知られているところであり、疼痛部位が数少なく限られていればリニアックによる局所照射がよい適応となっています。しかし、骨転移は全身に多発する状況もしばしば見られ、全体としての照射容積が大きくなる場合リニアックによる照射では放射線による障害が大きくなるため、その適用には限界がありました。こうした症例に、骨転移巣に集積する性質を持つ放射性核種「<sup>89</sup>Sr」（商品名：メタストロン）を投与し多くの転移巣を一度に内照射するという治療が平成19年秋によく薬価収載となり、当院も開院に向けてこの治療への対応を準備してきました。そして、開院後間もなく県内で最初にこの治療に取り組み始め、院内外の患者さんへサービスを提供しています。

薬価は約30万円で、3割負担では約10万円かかりますので、この点につき患者さんにあらかじめ説明が必要です。また、適用にあたっては、疼痛の部位に一致して骨シンチグラム上集積所見が見られることや、骨髄抑制状態にないこと、腎機能が保たれていることなどいくつかの条件がありますので、詳しいことについてはお問い合わせください。

γ線を放出する<sup>131</sup>Iと異なり、放出する放射線はβ線のみですので核種投与後も隔離は必要なく、帰宅あるいは一般病室への帰室が可能です。また、投与から3ヶ月以上経過すれば、必要に応じ再度投与してよいことになっています。効果はあくまで疼痛の緩和であり、骨病変を縮小させるような効果が出るかどうかについては現在のところ証明されていません。（次号は最終回「<sup>90</sup>Y(イットリウム90)を用いた悪性リンパ腫の免疫核医学治療」の紹介です）

## 北上市生涯学習まちづくり

# 「出前講座」中部病院登録講座の御紹介

北上市では、市民などの団体が企画して注文する学習会に、講師を派遣する『出前講座』を開催しています。

県立中部病院では、北上市民の方達に中部病院をもっと知って頂くことを目的に、平成22年度からこの「出前講座」に右記の講座を登録しています。

今年度は、計13回の講座依頼があり577人の方に参加して頂きました。

写真は2月13日(水)に北上市口内町の水押公民館で開催された「出前講座」の様子です。終始和やかな雰囲気、皆さん熱心に話しに耳を傾け「大変参考になった」という感想を頂きました。

次年度も、中部病院を知って頂くために積極的に「出前講座」に出向いて行きたいと思っています。

＝ 中部病院からの出前メニュー(おしながき)＝＝＝＝＝

1.「がんになっても安心して暮らせる町をめざして」

～がんという病気と緩和ケア～

2.「皆で守ろう地域の医療」

～かかりつけ医と病院の役割を知って賢い受診を～

3.「おいしく楽しく出来る食事コントロールのはなし」

～まだ大丈夫な方からもうピンチな方まで～

☆☆新メニュー(25年度～)★

「救急受診」

～その前に家庭でできる対応～



## もう春はすぐそこ…「そ〜ら通信 mini」に登場した花々



ヒナザクラ



ユキワリコザクラ



リシリ lindou



オサバグサ



ヒメイチゲ



地域医療福祉連携室からのお願い

◇当院は予約制です◇基本的に外来診療は予約制とさせていただきます。患者さんが予約なしに紹介状をお持ちいただいた場合、長時間お待たせしたり、外来の状況によっては予約を取り直して後日来院いただくこともありますので、お手数をおかけしますが、緊急の方以外はFAXで事前予約のお申込をいただくようご協力をお願いいたします。

岩手県立中部病院 地域医療福祉連携室  
〒024-8507 岩手県北上市村崎野17番10号

TEL 0197-71-1511 FAX 0197-71-1881 (地域連携室専用)

URL <http://www.chubu-hp.com/>



復興と再生へ  
-Together As ONE-  
岩手県立病院

